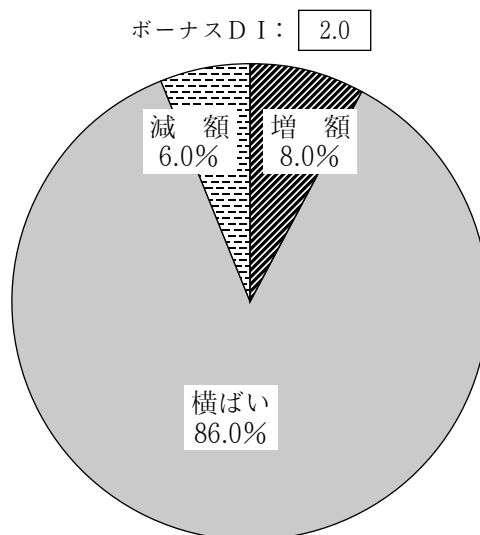


2018. **12**
No. **194**

調査レポート

2018年冬季 県内民間ボーナス支給見通し －ボーナスD Iは12期連続のプラス－

冬季民間ボーナス支給見通し（全産業）



「第85回県内企業経営動向調査」から

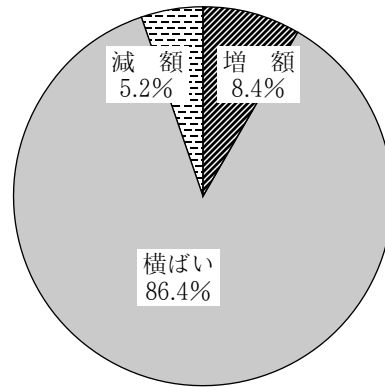
当行の第85回県内企業経営動向調査（10月上旬実施、回答企業307社）によると、今冬のボーナス支給予定額は、昨冬の支給額に対して「増額」回答先割合が8.0%（昨冬調査11.6%）、「横ばい」回答先割合が86.0%（同82.1%）、「減額」回答先割合が6.0%（同6.3%）となった。この結果、冬季のボーナスDI（「増額」回答先割合－「減額」回答先割合）は2.0と、昨冬（5.3）と比べて3.3ポイント低下したものの、12期連続のプラス（「増額」超）となった。

今回実施した企業経営動向調査によると、2018年度上期の業況は、猛暑、台風などの天候不順や原油価格高騰などを背景に非製造業で悪化したほか、製造業も、これまでけん引役となっていた機械工業の増勢が鈍化するなど改善の動きに一服感が窺われた。一方、2018年度下期の業況見通しは、製造業、非製造業ともに上向きに転じる見込みとなっている。

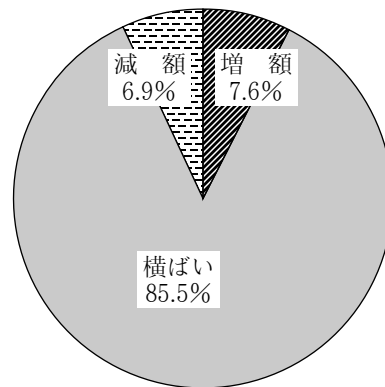
また、同調査における雇用の充足度をみると、「不足」と回答した先が4期連続で4割超

冬季民間ボーナス支給見通し

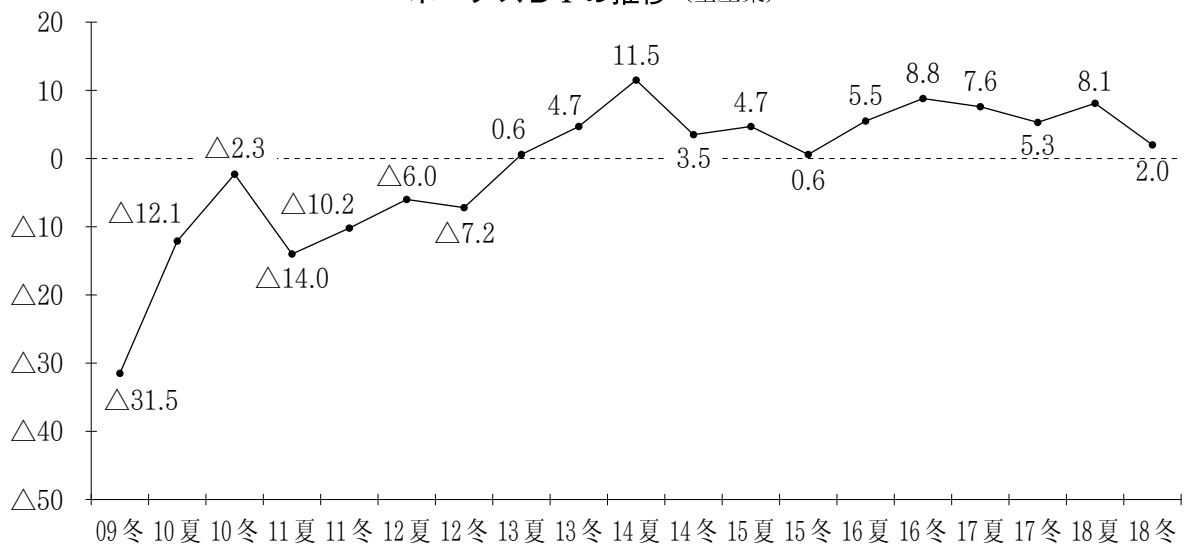
（製造業） ボーナスDI： 3.2



（非製造業） ボーナスDI： 0.7



ボーナスDIの推移（全産業）



●— ボーナスDI（注）

（注）DI =（「増額」回答先割合）－（「減額」回答先割合）

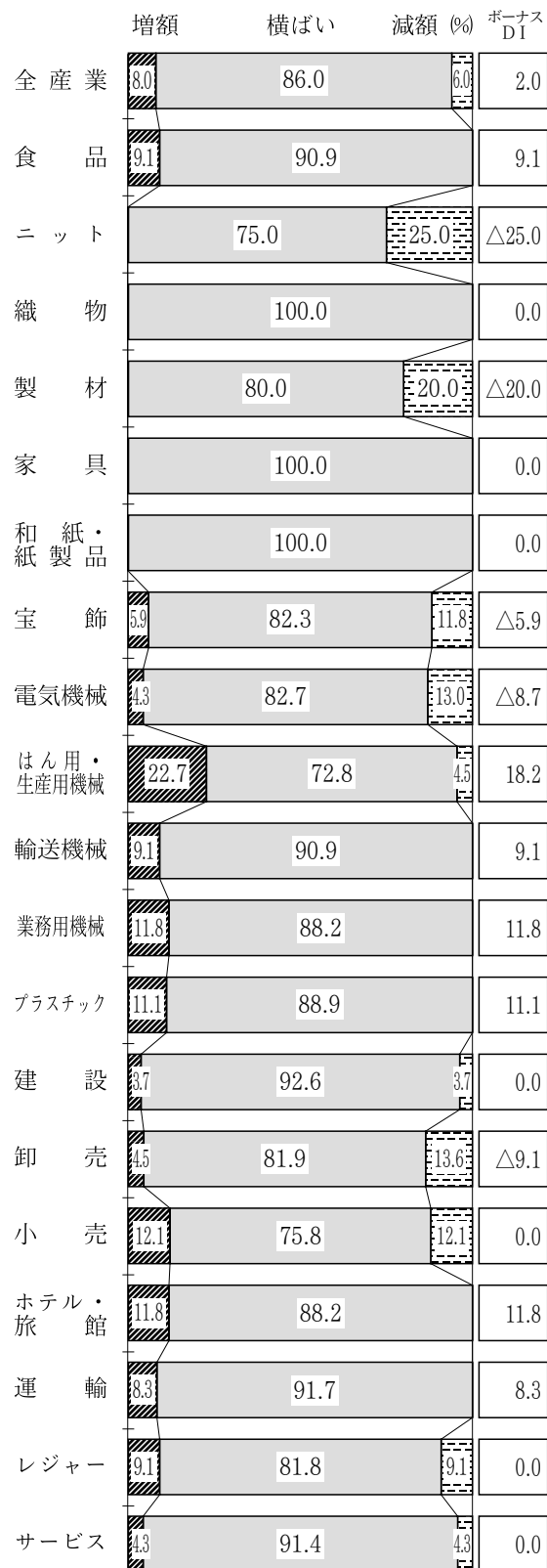
となり、県内企業の人手不足感の強さを裏付ける結果となった。今後の対策では、「正社員の採用」と回答した先が4割超を占め最多となるなど、引き続き正規雇用で人材確保を図ろうとする動きが窺われる。経営上の問題点をみても、「労働力不足」、「人材・技術不足」、「従業員の高齢化」が引き続き上位3項目を占めており、人手不足への対応に苦慮している状況が窺われる。

このように、景況感に一時的な足踏みはみられるものの、先行きへの期待感や雇用情勢の逼迫がボーナス支給見通しに反映され、ボーナスDIが引き続きプラス（「増額」超）となったものと考えられる。

業種別にみると、製造業は、「増額」回答先割合が8.4%（昨冬12.3%）、「減額」回答先割合が5.2%（同7.1%）となった。この結果、ボーナスDIは3.2と、昨冬（5.2）と比べて2.0ポイント低下したものの、引き続き「増額」超となった。このうち機械関連では、はん用・生産用、業務用、輸送の各機械が「増額」超となった一方、電気機械は「減額」超となった。その他の業種では、プラスチック、食品が「増額」超となった一方、ニット、製材、宝飾は「減額」超となった。

非製造業は、「増額」回答先割合が7.6%（昨冬10.9%）、「減額」回答先割合が6.9%（同5.5%）となった。この結果、ボーナスDIは0.7と、昨冬（5.4）と比べて4.7ポイント低下し、若干ながら「増額」超となった。業種別にみると、ホテル・旅館、運輸が「増額」超となった一方、卸売は「減額」超となった。

冬季民間ボーナスの業種別支給見通し





山梨中銀TKC連携ローン

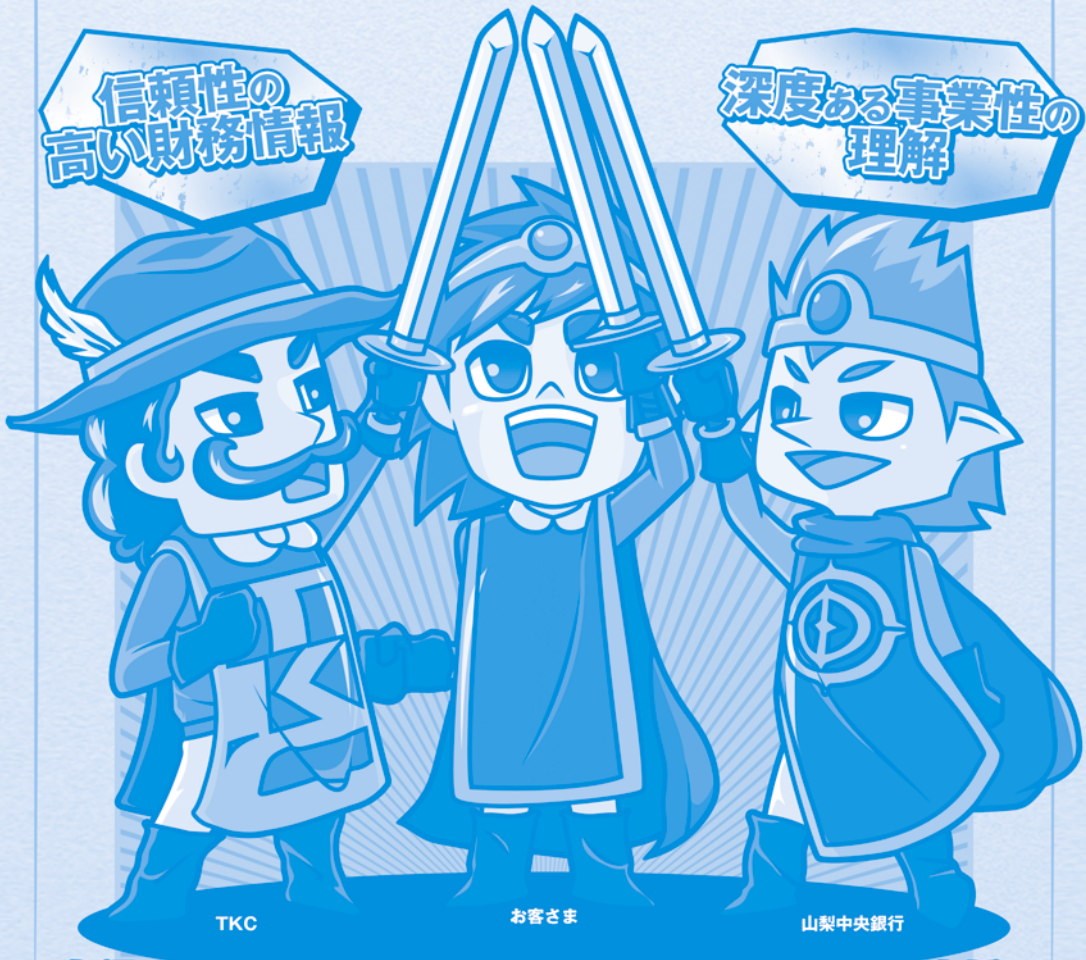
甲斐の三銃士®

担保・保証人不要

最大0.5%優遇

信頼性の高い財務情報

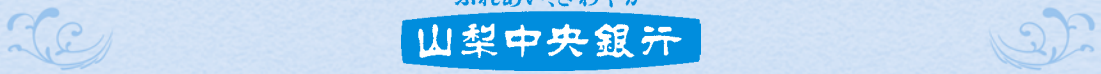
深度ある事業性の理解



当行とTKCは連携して、お客さまの成長・経営改善支援に積極的に取り組んでまいります。

ふれあい、さわやか

山梨中央銀行



詳しくは山梨中央銀行の窓口または担当者にお問い合わせください。